

令和2事業年度  
( 第 17 期 )

決 算 報 告 書

国立大学法人  
長岡技術科学大学

# 令和2年度 決算報告書

国立大学法人 長岡技術科学大学

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差額 (決算－予算)	備考
収入				
運営費交付金	3,638	3,681	43	(注1)
施設整備費補助金	517	418	△99	(注2)
船舶建造費補助金	—	—	—	
補助金等収入	593	707	114	(注3)
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	25	25	—	
自己収入	1,471	1,437	△34	
授業料、入学金及び検定料収入	1,209	1,202	△7	(注4)
附属病院収入	—	—	—	
財産処分収入	—	—	—	
雑収入	262	235	△27	(注5)
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	1,122	1,281	159	(注6)
引当金取崩	—	—	—	
長期借入金収入	—	—	—	
貸付回収金	—	—	—	
目的積立金取崩	381	215	△166	(注7)
前中期目標期間繰越積立金取崩	7	14	7	(注8)
計	7,754	7,778	24	
支出				
業務費	5,497	5,092	△405	
教育研究経費	5,497	5,092	△405	(注9)
診療経費	—	—	—	
施設整備費	542	443	△99	(注10)
船舶建造費	—	—	—	
補助金等	593	647	54	(注11)
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	1,122	1,070	△52	(注12)
貸付金	—	—	—	
長期借入金償還金	—	—	—	
大学改革支援・学位授与機構施設費納付金	—	—	—	
計	7,754	7,252	△502	
収入－支出	—	526	526	

## ○予算と決算の差異について

- (注1) 運営費交付金については、授業料免除枠の追加交付による11百万円の増、年俸制導入促進費の追加交付による5百万円の増、退職手当の前年度未使用額24百万円の増、業務達成基準を適用した事業の前年度からの繰越額3百万円の増により、予算金額に比して決算金額が43百万円多額となっています。
- (注2) 施設整備費補助金については、計画変更等により予算金額に比して決算金額が99百万円少額となっています。
- (注3) 補助金等収入については、予算段階では予定していなかった国からの補助金の獲得等により、予算金額に比して決算金額が114百万円多額となっています。  
また、補助金等収入には、授業料等減免費交付金が59百万円含まれており、本補助金は授業料等免除に使用しております。
- (注4) 授業料、入学金及び検定料収入については、予定より学納金の納入者数が減少したため、予算金額に比して決算金額が7百万円少額となっています。
- (注5) 雑収入については、新型コロナウイルス感染拡大に伴い新入生の学生宿舍入居を見送ったことによる寄宿料収入の減、科研費等の受入減に伴う科研費等間接費収入の減等により、予算金額に比して決算金額が27百万円少額となっています。
- (注6) 産学連携等研究収入及び寄附金収入等については、積極的に受託研究等の獲得に努めたこと、予定より前年度からの繰越額が増加したこと等により、予算金額に比して決算金額が159百万円多額となっています。なお、前年度からの繰越額は209百万円です。
- (注7) 目的積立金取崩については、事業の繰越等により、予算額に比して決算金額が166百万円少額となっています。
- (注8) 前中期目標期間繰越積立金取崩額については、目的積立金相当額の前年度からの繰越額の増加により、予算金額に比して決算金額が7百万円多額となっています。
- (注9) 教育研究経費については、経費の節減に努めたこと、また、学内既定事業から関連補助金及び間接経費への一部執行を振替えたことによる支出減等により、予算金額に比して決算金額が405百万円少額となっています。
- (注10) 施設整備費については、(注2)に示した理由により、予算金額に比して決算金額が99百万円少額となっています。
- (注11) 補助金等については、(注3)に示した理由等により、予算金額に比して決算金額が54百万円多額となっています。
- (注12) 産学連携等研究経費及び寄附金事業費等については、執行計画の見直し等により翌年度以降に繰越を行なったため、予算金額に比して決算金額が52百万円少額となっています。